

【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	三島市家庭教育支援チーム
活動開始年度	平成 27 年度
活動拠点	三島市民生涯学習センター
活動範囲	三島市内全域
活動財源	<input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(地域における家庭教育支援総合推進事業) <input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(先駆的家庭教育支援推進事業) <input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名) <input type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ()
組織体制	<u>8</u> 人 家庭教育アドバイザー(元教員)4人 家庭教育サポーター(元三島市PTA連絡協議会役員等)3人 コーディネーター(市職員)1人
具体的な活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 講座型 <input type="checkbox"/> 拠点型 <input type="checkbox"/> 訪問型 <input type="checkbox"/> 総合型 <input type="checkbox"/> その他() 【活動内容】 ①保護者への学習機会の提供(家庭教育講座の実施) 小中学校の家庭教育学級や懇談会等で、静岡県教育委員会作成の家庭教育ワークシート「つながるシート」を活用したグループトーク形式の講座を実施。 ②家庭教育相談の実施 授業参観日等の保護者が学校に集まる日に、相談室等で家庭教育に関する相談を実施(学校から家庭教育相談を実施したいと希望があった場合にも実施)。 ③学校やPTA、市の主催する家庭教育活動への協力 三島市PTA連絡協議会が主催する「父親委員会」や「母親委員会」、市主催「幼児期の家庭教育セミナー」で「つながるシート」を活用した講座の実施(独自のシートを作成し、講座を実施する場合もある)。 ④ミーティングの実施(定期的な活動打合せの実施) 月に1回程度、家庭教育支援員、家庭教育サポーター、市担当職員が、家庭教育講座の内容や教育相談について、実施校の要望等に応じた実施内容の確認を行う(講座で使用するシート作成や講座実施後のアンケート結果からの振り返りも行う)。

⑤家庭教育講座の周知
 校長会議・園長会議等において家庭教育講座や相談について周知。また、教頭会議では、実際に教頭先生や市指導主事たちを参加者とした講座を実施。

⑥県教委社会教育課主催の「家庭教育支援員養成研修会」への参加。

活動の成果

- ・家庭教育学級や懇談会における家庭教育ワークシート「つながるシート」を活用した家庭教育講座では、参加者同士が子育てや家庭教育について互いの考えや思いを伝え合うことで学び合い、親として育ち合うことを目的に実施していることもあり、参加した方からは「なかなか話す機会のない子育てについて楽しく話し合えてすっきりした。」「どの家庭も同じような悩みがあるのだと思い、ほっとした。」「同じ年代の子を持つ方の考えや意見を聞くことができ、とても参考になった。」「子どもをたくさんほめてあげようと思った。」「今後も、家庭教育講座を受けてみたくなった。」等の好評を得ている。
- ・家庭教育相談に訪れた方は、相談を終えた後に明るい顔になって帰っていくことが多く、ちょっとした家庭教育の悩みでも早い段階で相談することによって安心できたり、対処方法の示唆が得られたりして、悩みの解消につながる。
- ・学校の懇談会等で家庭教育講座を活用してもらうため、教頭会議で(模擬体験)講座を実施し、教頭先生方から「実際に講座の雰囲気を知ることができ、よかった。学校の職員に紹介したい。」「とても和やかな雰囲気で楽しかった。学校でも積極的に取り入れていきたい。」「実際に体験したことで、教職員、PTA の皆様に勧めやすくなった。」との声を得ることができ、学校での活用の周知につながった。


家庭教育講座




<p>活動において苦労した点や課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講座・相談等は学校の希望(日時・内容)に合わせて実施しているが、講座が短時間となる場合がある(参加した方から、「時間が短かった。」「もう少し話をしたかった。」などの感想がある)。時間設定は、学校の時間割の関係から短くなってしまう場合があるため、時間の確保が難しい。 ・県からは「井戸端会議型の家庭教育講座では、アドバイスのようなことを無理にしないでよい。」と言われているが、実際、講座の参加者はアドバイスを望んでいる方が多い。 ・是非参加してもらいたい保護者になかなか参加してもらえない状況がある。講座に参加できない(来られない)保護者にも聞いてほしい。 ・学校が求めていることと保護者が求めていることが異なる場合がある。 ・中学校では、講座よりも相談の実施が中心であるが、相談の件数も少ない。不登校傾向の子どもの保護者の相談等ができればよい。 ・学校間の格差(小中学校間、家庭教育学級間の意識格差)がある。 ・活動場所を小中学校だけでなく、幼稚園・保育園に広げていきたい。 ・今後、活動を継続していくために家庭教育アドバイザーや家庭教育サポーターの後継者をどう育成していくか、どのように人材を確保するか。
<p>今後の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の保護者だけでなく、就学前の子どもを持つ保護者を対象に講座・相談等を実施する。幼稚園や保育園に周知をし、講座・相談の実施を計画。そのために、まず、園長会議等で体験講座を実施、先生方に講座の良さを知ってもらう。 ・学校等とも連携しながら、学年・学級懇談会、研修等で、保護者の抱える悩みや不安に対応した講座・相談等ができるよう啓発する。 ・静岡県教育委員会作成の家庭教育ワークシート「つながるシート」を参考に、各学校の実態や講座内容に合ったオーダーメイドのシートの作成に取り組む。
<p>問合せ先</p>	<p>(部署・氏名等)三島市教育委員会生涯学習課・佐藤倫彦 (住所) 〒411-0035 静岡県三島市大宮町1-8-38 (TEL)055-983-0883 (E-mail)syougai@city.mishima.shizuoka.jp</p>